

教師との関わり経験と教師への信頼感が 教職志望動機に及ぼす影響その2

— 体育系短大における小学校・幼稚園の教員免許取得希望者を対象とした調査 —

Effects of the Relationship with Their Teachers during School Life and
the Trust in Teachers on the Motivation to Be School Teachers 2:
On those Who Want to Be Elementary School/Kindergarten Teachers in Junior College of P.E.

キーワード：教職志望動機、教師との関わり経験、教師への信頼感、
小学校、幼稚園、体育系短期大学

大石 千歳

問題意識

大石(2013)は、中学校・高等学校の教員免許取得希望者を対象として、教師との関わり経験と教師への信頼感が教職志望動機に及ぼす影響について検討した。その結果、教師に対して安心感をもっている学生は、教職を志望する動機が強いことが示された。学校時代に教師に温かく受容され、安心感を抱いた経験が、自分も教師になって学校で子どもたちに教えたいとの思いを抱かせるのは、自然なことである。よい教師との出会いは、学校に在学している間の勉強や運動、生活指導等のみにとって重要なだけでなく、生徒が職業や人生のキャリアを考えるうえでも重要なことであるといえる。

一方で、教職科目を履修しながらも教師に対する不信感を持っている学生は、なんとなく、まわりに勧められるまま流されて教職を履修している傾向が強いことがわかった。大石(2013)の調査対象者である東京女子体育大学(以下、本学)学生の8割以上が教職課程を履修するため、そのような傾向が生じるのであろう。また、本学に進学するにあたって親に教員免許の取得を勧められるのかもしれない。また、教師に対して不信感を感じている学生は、教職を志望する際に“自分の(つらかった)経験を何かの役に立て

たい”という理由で教職を志望していることもわかった。

本学は、4年制大学と併設の短期大学を合わせると幼稚園、小学校、中学校、高等学校という4つの校種の教員免許状を取得できる大学である。体育大学といえば中学校・高等学校の保健体育の教員免許の取得がまず思い浮かべられるが、本学の短大では小学校や幼稚園の教員を目指すこともできる。小学校や幼稚園では、幼い子どもを相手に教員も体を動かして教育に従事することが求められ、小学校や幼稚園は体育・スポーツを得意とする本学学生の活躍の場として重要といえる。本学の短期大学児童教育学科は、幼稚園教諭か小学校教諭のどちらか、もしくは両方の教員免許取得が卒業要件となっている。そこで本研究では、短期大学児童教育学科において、小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得を目指している学生を研究対象とする。

大石(2013)では今後の課題として、「教師との関わり経験尺度」に回答する際に念頭におく「これまでお世話になった先生」について、校種や調査対象者との関係性を明確に特定していなかったことが挙げられた。そこで本研究では、学生が出会った先生を校種と立場別(担任の先生、部活動の監督など)に分け、「最も印象に残った先生」をまず一人選んでもらい、その先生をイメージして質問に答えてもらうこと

とする。こうすることで、個々の調査対象者が最も影響を受けたのが幼い子どもの頃お世話になった先生なのか、思春期の難しい年頃である中学生の時に先生から受けた影響なのか、より大人に近づき将来の職業や人生のことも考えられる年齢としての高校生に受けた影響なのかを、区別して検討することができる。大石(2013)ではSIT(Students' Trust in Teachers)¹尺度(中井・庄司, 2008)も実施しているが、この尺度に関しても同様の問題点が指摘できる。

さらに、「最も印象に残った先生」以外にも、これまでにお世話になった先生を校種別に区分し、それぞれの先生について自由記述形式を取り入れて尋ねることとする。学生は幼稚園(保育園)、小学校、中学校、高等学校、大学と多数の先生のお世話になる。それらの先生について、校種ごとに「好きな先生」「嫌いな先生」を自由記述で回答してもらう。本研究では、大石(2013)よりも、教職を志望する学生の生い立ちにおける先生との関わりやそのときに抱いた考えや感情の実態をありのままに把握することも目的としている。その上で、各校種における「好きな先生」「嫌いな先生」の内容(類型)別に教師との関わり経験、教師への信頼感について検討することも、本研究の目的である。

方法

調査対象者・実施時期

首都圏の体育系短期大学の教職科目履修者151名であった。実施時期は2013年2月(2012年度後期授業実施時)と2013年6月(2013年度前期授業実施時)であった(同一科目の履修者を2学年分対象としているが、2012年度には当該科目は後期科目であり、2013年度には前期科目となっている)。対象者のうち短期大学1年生は117名、小学校教員免許の取得を目指して科目等履修を行っている大学4年生17名、無記入およびその他は17名であった。

質問紙の内容

1. フェイスシート: 調査対象者の所属(短大生、科目等履修生)、取得したい教員免許の種類(小学

校教諭・幼稚園教諭・その両方とも)を尋ねた。

2. 小学校・幼稚園の教職を志望する動機の評定と自由記述: 4件法で評定するとともに、理由を自由記述で記してもらった。

3. 小学校で出会った「好きな先生」「嫌いな先生」に関する自由記述: どんな先生だったか自由に記載してもらった。

4. 幼稚園(保育園)で出会った「好きな先生」「嫌いな先生」に関する自由記述: どんな先生だったか自由記述で尋ねた。

5. 教師志望動機尺度(春原, 2010): 第一因子「学校教授志向」(5項目)、第二因子「目的無自覚・同調」(5項目)、第三因子「子ども志向」(2項目)、第四因子「恩師志向」(2項目)、第五因子「経験活用志向」(4項目)の計18項目から構成されている。

6. 最も印象に残った先生の選択と自由記述: 幼稚園(保育園)の先生、小学校の先生、中学校の担任の先生、中学校の部活の先生(顧問や監督)、中学校の担任や部活の先生以外の先生、高校の担任の先生、高校の部活の先生(顧問や監督)、高校の担任や部活の先生以外の先生、学校以外の習い事の先生の中から「最も印象に残った先生」(いい意味でも悪い意味でもよい)を一人選んでもらうとともに、どんな先生か自由記述形式で尋ねた。

7. 教師との関わり経験尺度(中井・庄司, 2009): 6で選んだ先生について、教師との関わり経験尺度(中井・庄司, 2009)「最も印象に残った先生」について評定する形で実施した。第一因子「教師からの受容経験」(7項目)、第二因子「教師との傷つき経験」(8項目)、第三因子「教師との親密な関わり経験」(6項目)、第四因子「教師からの承認経験」(3項目)の計24項目(4件法による評定)から成る。

8. STT尺度(中井・庄司, 2008): 6で選んだ「最も印象に残った先生」について評定した。第一因子「安心感」(11項目)、第二因子「不信」(10項目)、第三因子「役割遂行評価」(10項目)の計31項目(4件法による評定)で、教師に対する信頼感を測定する尺度である。

結 果

自由記述結果の分類

1. 教職を志望する理由(志望動機アフターコード)：まず教職を志望する動機に関する自由記述結果について、アフターコードによる分類を行った。まず、教職に就きたいという気持ちを持っている回答内容は、子どもが好き、幼い頃からの夢、先生との出会い、という系統である「夢系」、やりがいがある、子どもたちに教えたい、役立ちたいという「やりがい系」に分類された。子どもの頃からの夢という回答は多かったが、なぜ幼い頃からそのような夢を持つに至ったのかは、あまり記されていない。子どもが好き、子どもの成長に立ち会いたい、子どもにスポーツを教えたいという内容が多くみられたが、(児童教育の)勉強をしているうちになりたくなった、(子どもの世話をする仕事に就くことで)女性の社会進出を助けたい、などの回答もみられた。

教職に就きたいという気持ちを持っていない調査対象者もあり、教員にはならない、教員にはなれないなどの「ならない・なれない系」の回答があった。大変な仕事だから、自分には向いていない、採用試験に受からないだろう、免許だけほしいなどの回答がみられた。進路未決定・ほかになりたいものがあるという「未決定系」の回答もみられた。他の校種と迷っている、まだ将来を決められないなどの回答である。

以降の分析においては「夢・やりがい系」と「ならない・なれない・未決定系」の2カテゴリーを用いて、それぞれに含まれる調査対象者の傾向について分析する。

2. 小学校の好きな先生について：小学校時代に好きだった先生については、笑顔が素敵な先生、明るい先生、楽しい先生、優しい先生など、対人的な明朗さを表す「笑顔系」の回答が挙げられた。また、生徒を理解してくれる、親身になってくれる、一緒に遊んでくれる、包容力がある、熱心であるなど、面倒見のよさを表す「親身系」の回答も挙げられた。さらに、授業が上手な先生、何でもできる先生、厳しさもある先生など、有能な指導力を特徴とする「有能系」の回答もみられた。優しいだけでなく善悪のけじ

めをきちんとつけ、ちゃんと叱ってくれる先生を好ましく思う調査対象者が多かった。以降の分析においては、この3カテゴリーを用いた分析を行う。

3. 小学校の嫌いな先生について：小学校の嫌いな先生については、すぐ怒る、いつも怒っている、怖い、暴力や体罰があるなどの「怒り・暴力系」の回答が挙げられた。また、生徒を理解してくれない、すぐに決めつける、信じてくれない、生徒と距離があるなどの「無理解系」があった。さらに、偉そう、えこひいきをする、自分の都合で動く、セクハラをする、古い考えなどの「理不尽・勝手系」の回答があった。他に、細かすぎる、うるさいなどの「過干渉系」や、授業が下手、適当であるなどの「無能系」もみられた。以後の分析では、「怒り・暴力系」「無理解系」「理不尽・勝手系」の3カテゴリーを用いた分析を行う。

4. 幼稚園・保育園の好きな先生について：好きな先生としては、明るい、楽しい、笑顔等の「笑顔系」と、気にかけてくれる、一緒に遊んでくれる、ほめてくれる等の「親身系」、ピアノが上手、ちゃんと叱ってくれる等の「有能系」の回答がみられた。

5. 幼稚園・保育園の嫌いな先生について：嫌いな先生としては、すぐに怒る、たたく等の「怒り・暴力系」、いやなことをされた、性格が悪い、冷たい、差別やひいきをするといった「理不尽系」がみられたほか、「いない」という回答もかなり多くみられた。

6. 印象に残った先生について：印象に残った先生として選択肢から選ばれたのは、短大児童教育学科1年生が多く(151名中117名)を占める調査対象者においても、中学校や高校の部活動の先生という回答が多かった。調査対象者全体のうち、中学校の部活動の先生を選んだのは22名(15.5%)、高校の部活動の先生を選んだのは46名(32.4%)を占めていた。部活動の先生に対しては、厳しかったけど成長させてもらった、という厳しさを指摘した内容が多かったこと、競技以外のこと(世の中で大事なこと、人として等)も教えてもらった、という内容が多かったことがわかった。分類されたカテゴリーとしては、面白い、楽しい、笑顔といった「笑顔系」、自分たちのことを考えてくれた、熱血先生、勉強や競技以外のことも教えてくれあ、信じてくれた、わかってくれたという「親

身系」、そして厳しいけれど成長させてくれた、指導が上手、メリハリがある指導、平等であるなどの「有能系」が多くみられた。しかし、ネガティブな理由で印象に残った先生も挙げられており、「ネガティブ系」と分類した。

なお表1に、上記の自由記述のカテゴリ分けと各カテゴリに属する度数およびその有効パーセントを

まとめた。

分析指標の作成

1. 教職志望動機尺度：春原(2010)に示された下位尺度である「教授志向」「無自覚・同調志向」「子ども志向」「恩師志向」「経験活用志向」の5得点を、調査対象者の所属(短大1年生、科目等履修4年

表1. 各カテゴリ別の教職志望動機尺度下位尺度得点の平均値(SD)

調査参加者の学生の所属			教授志向				同調志向			
	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 短大1年生	117	85.4	2.82	(.60)		1<2*	2.46	(.48)		1>2*
2. 科目履修4年生	17	12.4	3.08	(.37)			2.15	(.51)		
取得したい教員免許(校種)	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 小学校	32	21.3	3.03	(.61)		1>2*	2.37	(.50)		
2. 幼稚園	99	66.0	2.80	(.55)			2.47	(.54)		
3. 小・幼両方	19	12.7	2.82	(.64)			2.40	(.41)		
志望動機自由記述アフターコード	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 夢・やりがい系	82	61.7	3.00	(.57)		1>2**	2.43	(.48)		
2. ならない・なれない・未決定系	49	36.8	2.67	(.57)			2.43	(.55)		
印象に残った先生(選択肢)	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 幼稚園・保育園の先生	5	3.5	3.08	(.30)		2>3+, 2<4+	2.76	(.33)		1>2+, 1>4+
2. 小学校の先生	16	11.3	3.15	(.47)		2>5*, 2<7*	2.29	(.54)		1>5*, 3>5*
3. 中学校の担任の先生	14	9.9	2.74	(.78)		2<9*	2.49	(.44)		5<6*, 5<7*
4. 中学校の部活動の先生	22	15.5	2.82	(.60)		5<8+, 8>9+	2.30	(.58)		5<8+, 5<9*
5. 中学校の担任や部活動以外の先生	10	7.0	2.64	(.65)			2.06	(.49)		
6. 高校の担任の先生	14	9.9	2.94	(.50)			2.59	(.45)		
7. 高校の部活動の先生	46	32.4	2.78	(.52)			2.47	(.57)		
8. 高校の担任や部活動以外の先生	8	5.6	3.10	(.67)			2.53	(.41)		
9. 学校以外の習い事の指導者	7	4.9	2.57	(.71)			2.60	(.38)		
印象アフターコード	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 親身・熱心系	53	48.6	2.79	(.64)			2.38	(.49)		
2. 有能・指導力系	44	40.4	2.89	(.51)			2.28	(.47)		
3. 笑顔系	5	4.6	2.76	(.97)			2.25	(.34)		
4. ネガティブ系	7	6.4	2.74	(.67)			2.46	(.49)		
小学校好きな先生	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 笑顔系	34	27.2	2.82	(.61)			2.35	(.50)		
2. 親身・熱心系	55	44.0	2.91	(.59)			2.44	(.44)		
3. 有能・指導力系	36	28.8	2.82	(.58)			2.47	(.55)		
小学校嫌いな先生	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 怒り・暴力系	30	31.6	2.76	(.58)			2.56	(.38)		1>2+
2. 無理解系	24	25.3	2.82	(.67)			2.29	(.57)		
3. 理不尽・勝手系	30	31.6	2.85	(.64)			2.41	(.57)		
幼保好きな先生	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 笑顔系	42	38.9	2.95	(.63)		+ 1>2+, 2<3*	2.48	(.65)		
2. 親身系	43	39.8	2.73	(.55)			2.34	(.42)		
3. 有能系	23	21.3	3.06	(.65)			2.45	(.42)		
幼保嫌いな先生	度数	有効%	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1. 怒り・暴力系	20	13.8	3.04	(.49)		1>2+	2.62	(.64)		+ 1>3*
2. 理不尽系	11	7.6	2.67	(.61)			2.56	(.29)		
3. いない	113	77.9	2.83	(.60)			2.37	(.50)		

注1: *は $p<.05$ 、**は $p<.01$ 、***は $p<.001$ 、で有意、+は $p<.10$ で有意傾向であることを表している。

注2: 3群以上ある分類については1要因の分散分析を行い、多重比較はLSD法である。主効果が有意でなくても多重比較で有意になっている部分については記載した。

注3: 2群しかない分類についてはt検定を行っており、主効果の欄は2群の有意差の有無を表し、多重比較の欄は2群の平均値の大小関係を表している。

注4: 各分析指標については欠損値を含むデータが分析対象外となるため、度数は各指標において多少異なる。

生)、取得したい教員免許の校種(小学校、幼稚園、小学校と幼稚園の両方)、および前述の各自由記述のカテゴリーごとに集計した(表1)。

2. 教師との関わり尺度:中井・庄司(2009)の各下位尺度に属する項目の平均値を合計し項目数で割ったものを、各測定指標とした。これを調査対象者の所属、取得したい教員免許の校種、および各自

由記述のカテゴリーごとに集計し、表2にまとめた。

3. STT尺度:(中井・庄司(2008)の各下位尺度に属する項目の平均値を合計し項目数で割ったものを、各測定指標とした。これを調査対象者の所属、取得したい教員免許の校種、および各自自由記述のカテゴリーごとに集計し、表3にまとめた。

子ども志向				恩師志向				活用志向			
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.47	(.63)			3.06	(.86)			2.29	(.68)		
3.68	(.47)			3.41	(.67)			2.37	(.50)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.47	(.80)			3.48	(.69)	**	1>2**, 1>3**,	2.46	(.75)		
3.51	(.58)			3.02	(.87)			2.27	(.66)		
3.42	(.51)			2.76	(.90)			2.30	(.72)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.67	(.45)		1>2**	3.36	(.70)		1>2**	2.37	(.64)		1>2+
3.27	(.79)			2.82	(.93)			2.16	(.70)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.30	(.84)			3.60	(.55)			2.50	(.40)		1>5+, 2>5*
3.63	(.47)			3.31	(.68)			2.55	(.56)		3>5+, 4>5+
3.25	(.87)			3.11	(.79)			2.36	(.73)		8>5+
3.43	(.76)			3.07	(.85)			2.33	(.71)		
3.45	(.50)			3.20	(1.06)			1.85	(.79)		
3.61	(.40)			2.89	(.84)			2.29	(.51)		
3.55	(.52)			3.02	(.84)			2.22	(.67)		
3.69	(.46)			3.00	(1.16)			2.41	(.76)		
3.21	(1.11)			3.29	(1.07)			2.29	(.89)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.43	(.75)			3.05	(.82)		1>4+, 2>4*	2.35	(.70)		1>2*
3.50	(.52)			3.16	(.92)			2.07	(.65)		
3.50	(.35)			2.70	(.84)			2.05	(.96)		
3.36	(.38)			2.43	(.53)			2.50	(.43)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.51	(.53)			2.96	(.92)			2.13	(.69)		+
3.60	(.50)			3.22	(.76)			2.45	(.66)		
3.44	(.75)			3.15	(.81)			2.28	(.56)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.38	(.65)			2.97	(.82)			2.37	(.58)		2>3+
3.52	(.62)			3.13	(.78)			2.42	(.63)		
3.45	(.63)			3.03	(.98)			2.10	(.74)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.49	(.60)			3.12	(.96)		+ 1<3*, 2<3*	2.39	(.81)		
3.47	(.63)			3.14	(.77)			2.20	(.62)		
3.63	(.57)			3.57	(.53)			2.45	(.51)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.50	(.65)			3.33	(.71)		1>2+	2.41	(.53)		
3.50	(.55)			2.77	(.90)			2.32	(.64)		
3.47	(.63)			3.08	(.86)			2.29	(.71)		

表2. 各カテゴリー別の教師との関わり経験尺度の各下位尺度得点の平均値 (SD)

調査参加者の学生の所属	受容経験				傷つき経験			
	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
短大1年生	3.23	(.65)			1.89	(.77)		
科目履修4年生	3.39	(.61)			1.74	(.73)		
取得したい教員免許の種類(校種)	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
小学校	3.39	(.51)		1>3 *	1.59	(.71)		* 1<2 *, 1<3+,
幼稚園	3.26	(.62)			1.96	(.78)		
3.小・幼両方	3.02	(.88)			2.01	(.81)		
志望動機自由記述アフターコード	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.夢・やりがい系	3.27	(.63)			1.82	(.75)		
2.ならない・なれない・未決定系	3.32	(.62)			1.81	(.74)		
印象に残った先生(選択肢)	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.幼稚園・保育園の先生	3.20	(.57)		2<6+, 4<5+	1.80	(.71)		2<7+
2.小学校の先生	3.23	(.79)		4<6 **, 6>7 *	1.64	(.78)		
3.中学校の担任の先生	3.24	(.45)			1.74	(1.02)		
4.中学校の部活動の先生	3.06	(.58)			1.86	(.69)		
5.中学校の担任や部活動以外の先生	3.50	(.50)			1.71	(.67)		
6.高校の担任の先生	3.62	(.46)			1.75	(.61)		
7.高校の部活動の先生	3.19	(.72)			2.08	(.75)		
8.高校の担任や部活動以外の先生	3.41	(.53)			1.91	(.93)		
9.学校以外の習い事の指導者	3.37	(.49)			1.65	(1.04)		
印象アフターコード	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.親身・熱心系	3.44	(.50)		*** 1>2 *, 1>4 ***	1.77	(.76)		** 1<4 **, 2<4 **
2.有能・指導力系	3.08	(.65)		2>4 ***	1.75	(.69)		3<4 **
3.笑顔系	3.37	(.33)		3>4 ***	1.43	(.40)		
4.ネガティブ系	2.10	(1.04)			2.75	(.95)		
小学校好きな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.笑顔系	3.31	(.58)		2>3+	1.79	(.84)		
2.親身・熱心系	3.34	(.67)			2.04	(.72)		
3.有能・指導力系	3.09	(.71)			1.81	(.81)		
小学校嫌いな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.怒り・暴力系	3.20	(.74)			1.94	(.79)		
2.無理解系	3.32	(.67)			2.15	(.79)		
3.理不尽・勝手系	3.32	(.55)			1.88	(.90)		
幼保好きな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.笑顔系	3.33	(.52)		* 1>2+, 2<3 **	1.96	(.82)		1>3+
2.親身系	3.08	(.75)			1.90	(.83)		
3.有能系	3.53	(.57)			1.60	(.72)		
幼保嫌いな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.怒り・暴力系	3.15	(.65)			2.07	(.86)		2>3+
2.理不尽系	3.13	(1.01)			2.24	(.90)		
3.いない	3.27	(.61)			1.80	(.75)		

注1: *は p<.05、**は p<.01、***は p<.001、で有意、+は p<.10 で有意傾向であることを表している。

注2: 3群以上ある分類については1要因の分散分析を行い、多重比較はLSD法である。主効果が有意でなくても多重比較で有意になっている部分については記載した。

注3: 2群しかない分類についてはt検定を行っており、主効果の欄は2群の有意差の有無を表し、多重比較の欄は2群の平均値の大小関係を表している。

親密経験				承認経験			
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.37	(.55)			3.48	(.61)		1<2+
3.41	(.51)			3.69	(.36)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.44	(.44)		1>3+, 2>3+,	3.65	(.39)		1>3 *
3.41	(.52)			3.49	(.61)		
3.17	(.68)			3.28	(.72)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.45	(.53)			3.56	(.57)		
3.39	(.51)			3.48	(.64)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.43	(.57)		6>7 *, 7<8 *	3.75	(.50)		3<9+, 4<9+
3.46	(.67)			3.46	(.79)		
3.42	(.32)			3.36	(.48)		
3.33	(.50)			3.41	(.60)		
3.47	(.33)			3.63	(.58)		
3.57	(.44)			3.57	(.55)		
3.25	(.62)			3.46	(.58)		
3.69	(.46)			3.58	(.58)		
3.33	(.41)			3.86	(.26)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.45	(.41)		*** 1>4 ***	3.67	(.41)		*** 1>2 *, 1>4 ***
3.36	(.55)		2>4 ***	3.39	(.60)		2>4 ***
3.47	(.48)		3>4 **	3.73	(.43)		3>4 ***
2.43	(.87)			2.43	(1.13)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.35	(.51)			3.59	(.51)		
3.48	(.53)			3.54	(.58)		
3.34	(.60)			3.36	(.71)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.33	(.60)			3.36	(.71)		1<3+
3.44	(.50)			3.56	(.57)		
3.38	(.49)			3.66	(.48)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.40	(.40)			3.50	(.52)		
3.34	(.66)			3.48	(.73)		
3.51	(.51)			3.70	(.45)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.36	(.46)			3.43	(.63)		
3.27	(.84)			3.33	(1.01)		
3.39	(.52)			3.52	(.54)		

表3. 各カテゴリー別のSTT尺度の各下位尺度得点および調査参加者の教職志望度得点の平均値(SD)

調査参加者の学生の所属	安心				不信			
	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
短大1年生	3.01	(.69)	1<2 *		1.95	(.73)	1>2 *	
科目履修4年生	3.30	(.44)			1.58	(.53)		
取得したい教員免許の種類(校種)	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
小学校	3.28	(.49)	+ 1>2 *, 1>3 *		1.51	(.44)	** 1<2 ***, 1<3 *	
幼稚園	2.98	(.65)			2.05	(.73)		
3.小・幼両方	2.89	(.93)			1.93	(.83)		
志望動機自由記述アフターコード	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.夢・やりがい系	3.07	(.70)			1.88	(.73)		
2.ならない・なれない・未決定系	3.07	(.63)			1.82	(.63)		
印象に残った先生(選択肢)	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.幼稚園・保育園の先生	3.35	(.49)			1.80	(.65)	2<7 *, 5<7 *	
2.小学校の先生	3.15	(.71)			1.61	(.64)		
3.中学校の担任の先生	3.04	(.37)			1.90	(.67)		
4.中学校の部活動の先生	2.92	(.72)			1.83	(.70)		
5.中学校の担任や部活動以外の先生	3.15	(.67)			1.56	(.87)		
6.高校の担任の先生	3.19	(.62)			1.92	(.67)		
7.高校の部活動の先生	2.93	(.73)			2.08	(.73)		
8.高校の担任や部活動以外の先生	3.24	(.59)			2.08	(.90)		
9.学校以外の習い事の指導者	3.14	(.67)			1.83	(.62)		
印象アフターコード	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.親身・熱心系	3.23	(.55)	** 1>2 *, 1>4 ***		1.75	(.64)	*** 1<4 ***	
2.有能・指導力系	2.98	(.63)	2>4 *, 3>4 ***		1.78	(.61)	2<4 ***	
3.笑顔系	3.16	(.32)			1.55	(.51)	3<4 **	
4.ネガティブ系	1.61	(.74)			2.87	(.65)		
小学校好きな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.笑顔系	3.02	(.62)			1.80	(.78)		
2.親身・熱心系	3.10	(.71)			2.03	(.67)		
3.有能・指導力系	2.95	(.70)			1.84	(.67)		
小学校嫌いな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.怒り・暴力系	2.95	(.68)			2.11	(.70)		
2.無理解系	3.02	(.80)			1.97	(.75)		
3.理不尽・勝手系	3.15	(.55)			1.87	(.74)		
幼保好きな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.笑顔系	3.06	(.59)	2<3 *		2.03	(.71)		
2.親身系	2.94	(.83)			1.87	(.79)		
3.有能系	3.32	(.52)			1.74	(.63)		
幼保嫌いな先生	平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
1.怒り・暴力系	2.92	(.72)			2.12	(.75)		
2.理不尽系	2.74	(1.12)			2.11	(.81)		
3.いない	3.09	(.62)			1.83	(.69)		

注1：*はp<.05、**はp<.01、***はp<.001、で有意、+はp<.10で有意傾向であることを表している。

注2：3群以上ある分類については1要因の分散分析を行い、多重比較はLSD法である。主効果が有意でなくても多重比較で有意になっている部分については記載した。

注3：2群しかない分類についてはt検定を行っており、主効果の欄は2群の有意差の有無を表し、多重比較の欄は2群の平均値の大小関係を表している。

役割遂行				教職志望度得点			
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.35	(.51)		1<2 **	3.32	(.79)		
3.64	(.36)			3.53	(.51)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.57	(.38)		+ 1>2 *, 1>3+	3.41	(.76)		
3.33	(.50)			3.28	(.80)		
3.29	(.65)			3.37	(.60)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.43	(.47)			3.77	(.48)		1>2 ***
3.42	(.49)			2.69	(.71)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.48	(.49)			3.40	(.55)		1>8+, 2>8 *
3.42	(.57)			3.56	(.51)		3>8+, 4>8 *
3.26	(.45)			3.21	(.70)		5>8 *, 6>8 *
3.40	(.38)			3.27	(.83)		7>8 **
3.47	(.62)			3.50	(.97)		
3.29	(.46)			3.43	(.94)		
3.40	(.56)			3.43	(.62)		
3.56	(.55)			2.63	(1.06)		
3.27	(.41)			3.00	(.82)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.48	(.43)		*** 1>4 ***	3.15	(.89)		* 1<2 **, 2>4 *
3.53	(.35)		2>4 ***	3.64	(.57)		
3.30	(.52)		3>4 ***	3.20	(.84)		
2.36	(.57)			3.00	(.58)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.35	(.56)			3.38	(.78)		
3.38	(.47)			3.25	(.78)		
3.45	(.49)			3.39	(.80)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.24	(.55)			3.27	(.74)		
3.39	(.58)			3.25	(.74)		
3.41	(.44)			3.40	(.72)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.37	(.47)			3.36	(.73)		
3.36	(.62)			3.40	(.76)		
3.48	(.44)			3.65	(.57)		
平均値	(SD)	主効果	多重比較	平均値	(SD)	主効果	多重比較
3.15	(.61)		1<3 *	3.60	(.60)		
3.32	(.61)			3.27	(.79)		
3.44	(.47)			3.30	(.78)		

各分類カテゴリー毎の平均値の比較

1. 教職志望動機

調査対象者の所属(短大1年生、科目等履修4年生)、教職志望動機自由記述(夢・やりがい系、ならない・なれない・未決定系)は、2カテゴリー間の比較であるためt検定を行った。他は1要因の分散分析を行うとともに、各カテゴリー間の多重比較(LSD法)を行った。結果は表1にまとめた通りであった。以下の結果解釈はすべて、分散分析の主効果もしくは多重比較、およびt検定により、統計的に有意もしくは有意傾向がみられた部分に基づいた内容となっている。統計分析の結果のうち、本文に記していない部分については、表を参照されたい。他のすべての指標についても同様である。なお紙幅の関係上、以下の文章による記述・考察は、表1～3の結果のうち主要な部分をまとめたものである。

－1. 教授志向(生徒に教えたいから教職に就きたい):短大1年生よりも科目等履修4年生のほうが高得点であった。取得したい教員免許の校種では、小学校志望者のほうが幼稚園志望者より教授志向が強かった。志望動機アフターコードについては、「夢・やりがい系」のほうが「ならない・なれない・未決定」よりも教職志望動機が強かった。

印象に残った先生の種別では、「小学校の先生」と「高校の担任や部活以外の先生」を選択した調査対象者の教授志向が高いこと、「中学校の担任や部活以外の先生」「学校以外の習い事の指導者」を選択した調査対象者の教授志向が低いことがわかった。印象に残った先生に関しては、9種類から1つのみ選択してもらうという回答方法であった。「中学校の担任や部活以外の先生」を「最も印象に残った先生」として選択しているということは、高校では印象に残る先生に出会っていなかったことや、中学校でも担任の先生や部活動の先生とは深い関わりを築けなかった可能性が考えられる。習い事の指導者を挙げた調査対象者も、学校では特筆すべき先生には出会えなかったという人もいた可能性がある。小学校の先生を選んだ調査対象者は、その先生との思い出が幼児・児童の教育という進路を選択させたと考えれば、教授志向の高さとの関連については納得できる結果

といえる。高校の担任や部活以外の先生については、詳細については不明ではあるが、進路指導の先生にお世話になって進路や進学を決めることができた、という思いがあるのかもしれない。

幼稚園・保育園で出会った好きな先生の影響としては、「有能系」の先生を挙げた調査対象者の教授志向が高いことがわかった。幼稚園・保育園で有能な先生に出会い、自分もそのような指導力のある先生になりたいと考えたため、教授志向が高いのであろう。

－2. 無自覚・同調志向(周りに流され何となく教職を目指している):短大1年生のほうが、科目等履修の大学4年生よりもこの傾向が強いことがわかった。これは、科目等履修が自らの意志によって申し込むものであり、教育実習も含めると4年制大学の卒業後も大学に残らなければならないという負担があるのを承知で行うことであるためと考えられる。一方で短大は卒業要件として幼稚園もしくは小学校、あるいは両方の教員免許の取得が求められるという事情がある。

印象に残った先生の種別としては、「中学校の担任や部活の先生」を挙げた調査対象者の無自覚・同調傾向は低かった。同調志向が高かったのは、幼稚園・保育園の先生を挙げた調査対象者や、高校の担任、高校の部活動の先生、高校の担任や部活動以外の先生、および習い事の先生を挙げた調査対象者であった。高校の先生方に関しては、高校で様々な立場の先生に勧められて本学を受験したということであろう。

－3. 子ども志向(子どもが好きで教職を目指している):教職志望動機尺度の下位尺度については、どの指標も有意差は見られなかった。子どもが好きだから教員になりたいという思いは、出会った教師による影響というよりも、調査対象者本人の性格であったり資質であったりするのであろう。

－4. 恩師志向(恩師の影響で教職を目指している):取得したい教員免許の校種に関する有意差が見られた(小学校>幼稚園, 小学校>両方)。小学校の教員免許の取得を目指している調査対象者が、恩師による影響を強く受けていることがわかった。小学校のみの免許の取得を目指している学生の所属は

短大生と4大生が約半数ずつであった。教職志望動機自由記述アフターコードについては、「夢・やりがい系」が「ならない・なれない・未決定」よりも有意に高得点であった。教職に夢ややりがいを感じている調査対象者は、自分自身が教師のよい影響を受けており、恩師のような教員になりたいと感じているといえる。印象に残った先生に関する自由記述アフターコードでは主効果が有意であり、「ネガティブ系」の回答を行った群が「親身・熱心系」および「有能・指導力系」よりも最も低い得点となっていた。いやな先生に関する強い印象を持っている学生が、恩師のような先生になりたいという思いが低いのは、ある意味当然といえる。笑顔系ではネガティブ系との間に有意差が見られなかった。教師の能力としては、有能さや指導力、熱心さや親身になってくれることが、より重要だといえるようだ。

幼稚園・保育園の好きな先生では、主効果が有意傾向であり、「有能系」が「笑顔系」「親身系」よりも高得点となった。恩師志向を高める要因としては、やはりお世話になった先生の有能さがカギになっている。

－5. 経験活用志向(学校でのつらかった経験を生かしたくて教職を志望する):教職志望動機自由記述アフターコードにおいて有意差がみられた(夢・やりがい系>ならない・なれない・未決定)。教職に夢・やりがいを感じればこそ、つらい経験も生かしたいと感じるのであろう。印象に残った先生の種別としては、「中学校の担任や部活以外の先生」を選択した調査対象者の得点の低さが目立った。中学校でも高校でも、担任の先生も部活の先生も特筆すべき印象を持たなかったということは、教師や学校に関して強い思い出となる出来事が少なかった可能性がある。よいことでもつらかったことでも、強い印象を残すような出来事が学級内にも部活動内にも存在しなかったのではないだろうか。印象アフターコードについては、親身・熱心系が有能・指導力系を有意に上回っていた。小学校の好きな先生に関しては主効果が有意傾向であり、小学校の嫌いな先生については、「無理解系」が「理不尽・勝手系」を上回った。先生に分かってもらえなかったという思いを持つ調査対象者

は、自分は生徒を理解できる教員になろうと、つらかった経験を幼稚園や小学校の教職を志望する動機に昇華させていると考えられる。

2. 教師との関わり経験尺度に関して

受容経験、傷つき経験、親密経験、承認経験の各下位尺度得点について、同様に各カテゴリー毎の平均値の比較を行った。

－1. 受容経験:取得したい教員免許の校種については、小学校>小幼両方という結果であった。印象に残った先生の種別としては、「中学校の部活動の先生」の得点が低く、「高校の担任の先生」の得点が高かった。部活動の先生は厳しい指導を行う機会も多いため、受容してくれたという思いは少なくなるのかもしれない。「高校の担任の先生」は、「高校の部活動の先生」よりも有意に「受容経験」の得点が高かった。高校の担任の先生は、進路指導を行う中で親身に相談に乗ってくれたり、部活動の先生ほど厳しい指導を行う立場ではないという状況が推察される。印象アフターコードでは主効果が有意であり、「親身・熱心系」の得点が高く「ネガティブ系」の得点が低いという結果がみられた。親身になってくれた、熱心に指導してくれたという先生には、受容されたという思いを抱くのは自然なことといえる。幼保の好きな先生については主効果が有意であった。「有能系」は「親身系」および「笑顔系」よりも有意に高得点であった。有能な先生は子どもを受容するのにも上手であるといえる。

－2. 傷つき経験(先生との関わりで傷ついたことがある):取得したい教員免許の種別の主効果が有意であり、「小学校」より「幼稚園」「小幼両方」が高かった。印象に残った先生の種別では、「高校の部活動の先生」の得点が高く、「小学校の先生」との間には有意差がみられた。高校の部活動の先生は厳しい指導を行うことも多いと考えられ、そのような指導を受けた際に傷ついた経験を持つこともあると考えられる。印象アフターコードに関しては主効果が有意であり、「ネガティブ系」の得点が「親身・熱心系」「有能・指導力系」「笑顔系」のどれに対しても有意に高かった。これはある意味当然の結果といえる。幼保の好きな先生では「有能系」よりも「笑顔系」のほうが

高く、意外な結果といえた。幼保の嫌いな先生については、「理不尽系」は「いない」よりも高かった。

－3. 親密経験（先生と親密な関わり経験がある）：取得したい教員免許の種別では「小幼両方」が「小学校」よりも「幼稚園」よりも有意に高かった。印象に残った先生の種別については、「高校の部活動の先生」の得点の低さが目立ち、「高校の担任」および「高校の担任や部活以外の先生」よりも有意に低かった。部活動の先生は厳しい側面を持つため、親密経験という意味では低い値となるといえる。印象アフターコードに関しては主効果が有意で、「ネガティブ系」は他の「親身・熱心系」「有能・指導力系」「笑顔系」のいずれよりも低かった。

－4. 承認経験（先生に承認された経験がある）：調査対象者の所属の主効果が有意傾向であり、「短大1年生」より「科目等履修4年生」が高かった。取得したい教員免許の種別では、「小学校」が「両方」より高かった。印象に残った先生の種別としては、「中学校の担任」「中学校の部活動の先生」の得点が低く、両者は「習い事の指導者」よりも有意に低い得点であった。体育大の児童教育学科やその科目等履修生には、スポーツやピアノ等で何らかの特技を持って入学してくる学生が多く、習い事で高い承認経験を持っているのであろう。印象アフターコードについては主効果が有意で、ネガティブ系が他のどの条件よりも低得点であった。また、「有能・指導力系」は「親身・熱心系」よりも有意に低い得点であった。「有能・指導力系」の先生は「親身・熱心系」の先生よりも、生徒にとっては厳しい指導スタイルと映る可能性が考えられた。

3. STT尺度に関して

安心、不信、役割遂行の3得点について各カテゴリー毎の平均値を比較した。

－1. 安心：主効果が有意であり、「短大1年生」よりも「科目等履修4年生」のほうが高得点であった。取得したい教員免許の種別では主効果は有意傾向であり、「小学校」は「幼稚園」「両方」よりも高かった。印象に残った先生のアフターコードの主効果が有意であり、「ネガティブ系」が他のどの条件よりも有意に

低かった。幼保の好きな先生に関しては、「有能系」が「親身系」よりも有意に高かった。指導力がある先生は頼りになって安心感を生むのであろう。

－2. 不信：調査対象者の所属の主効果が有意であり、「短大1年生」のほうが「科目等履修4年生」よりも高かった。取得したい教員免許の種別では、主効果が有意であり、「小学校」のみの免許取得を目指す調査対象者が、「幼稚園」のみおよび「両方」の調査対象者よりも低かった。印象に残った先生の種別では、「高校の部活動の先生」に対する不信の得点が高く、特に「小学校の先生」および「中学校の担任や部活動の以外の先生」よりも有意に高かった。やはり、部活動の先生の指導は厳しいのであろう。印象アフターコードの主効果が有意であり、「ネガティブ系」の得点が他のどの条件と比較しても有意に高く、突出していた。

－3. 役割遂行：調査対象者の所属の主効果が有意で、「短大生」より「科目等履修4年生」が高かった。取得したい教員免許の種別の主効果が有意傾向で、「小学校」が「幼稚園」「両方」よりも有意に高かった。印象に残った先生のアフターコードは主効果が有意で、「親身・熱心系」「有能・指導力系」「笑顔系」が「ネガティブ」より高かった。教師が熱心で有能であること、笑顔を絶やさないとされていることが、教師としての役割をきちんと遂行しているという印象につながるの自然である。幼稚園の嫌いな先生については、「いない」と答えた調査対象者のほうが「怒り・暴力系」の調査対象者よりも、得点が高かった。これも自然な結果である。

フェイスシートにおける調査対象者自身の教職志望動機との関連性

大石(2013)では、教職志望動機は、尊敬できる恩師に出会ったという経験や、教師に対する安心感を持つことにより醸成されるということが示されている。また学校時代に教師に温かく受容され、安心感を抱いた経験が、自分も教師になって学校で子どもたちに教えたいとの思いを抱かせることもわかった。本研究の各カテゴリー毎の各分析指標は、調査対象者自身の教職志望動機とどんな関連を持っていたかをまとめ

た。

教職志望動機の得点は、志望動機の自由記述結果が「夢・やりがい系」に分類された調査対象者のほうが、「ならない・なれない・未決定系」に分類された調査対象者よりも1%水準で有意に高かった。

印象に残った先生に関する選択肢では、「高校の担任や部活動以外の先生」を選んだ調査対象者(8名)の教職志望動機が目立って低く、習い事の指導者以外のどの先生を選んだ調査対象者よりも有意もしくは有意傾向がみられた。「高校の担任や部活動以外の先生」は、進路指導担当の先生の場合が多いと推察される。進路指導担当の先生から本学への進学を勧められて本学への進学を決めたような場合、本人の教職への強い意志があつての進学ではなかつた調査対象者もいるのかもしれない。他は、幼稚園・保育園の先生、小学校の先生、中学校の担任の先生、中学校の部活動の先生、中学校の担任や部活動以外の先生、高校の担任の先生のいずれを選んだ調査対象者も、それらの先生から何らかの影響を受け、教職志望動機が高まったと考えられる。これらの先生はいずれも、大石(2013)のいう恩師の影響の源になっていると考えられる。

印象に残った先生のアフターコードでは、「ネガティブ系」を選んだ調査対象者(7名)の教職志望動機の低さと、「有能・指導力系」を選んだ調査対象者(4名)の教職志望動機の高さが目立った。「有能・指導力系」は「ネガティブ系」よりも1%水準で有意に高く、「親身・熱心系」と比較しても5%水準で有意に教職志望動機が高かった。やはり、出会った先生が有能で指導力が高いと、勉強の教え方や生徒指導の仕方など、その手腕によりよい影響を受け、そのことが自分も教職を目指そうとする動機を強めたといえる。

教職志望動機尺度、教師との関わり尺度およびSIT尺度の各下位尺度との関連性では以下の結果がみられた。教職志望動機尺度の「教授志向」と調査対象者の教職志望動機の相関係数が有意であった($r=.378, p<.001$)。また、「子ども志向」との相関係数も有意であり($r=.478, p<.001$)、「恩師志向」との相関係数も有意であった($r=.364, p<.001$)。SIT尺度における「不信」については、調査対象者

の教職志望動機との間に負の相関が有意であった($r=-.169, p<.05$)。

考察

本研究では、調査対象者である学生における幼稚園・小学校・中学校の担任や部活動の指導者など、これまでに出会った教師との関わり方あり方を自由記述で検討した。その上で、その結果と教職志望動機や、教師との関わり経験、教師への信頼感の関連性を検討した。総じて、小学校の教員を志望している学生が、教授志向、恩師志向を高く持ち、過去の教師との関わりでは受容経験、親密経験、承認経験が高く、傷つき経験は低かった。教師への信頼感としては安心、役割遂行などが高く、不信感は低かった。教師との望ましい関わりと信頼関係があつたことが表れており、そのような経験が教職につきたいという気持ちにつながっているという、好ましい関連性が見て取れる。

各分析指標ごとに結果を考察すると、以下のようまとめることができる。

1. 教職志望動機について

教授志向が高かつたのは、印象に残った先生として「小学校の先生」「高校の担任や部活以外の先生」を挙げた学生であつた。また、幼稚園・保育園で出会った好きな先生として、「有能系」の先生を挙げた人も、教授志向が高かつた。すなわち、このような教師との出会いが調査対象者の教授志向を高め、それが教職志望動機を高めていることが今回明らかにされた。子ども志向については、本研究の結果からは出会った先生の影響というよりも本人のもともとの性格や志向性であることが示唆された。恩師志向については、教職を志望する動機として「夢・やりがい系」の自由記述を行った調査対象者の得点が高かつたことは当然の結果であるが、印象に残った先生として「ネガティブ系」の先生を挙げている調査対象者は恩師志向が低かつた。いやな先生・ダメな先生に出会ってしまうと、恩師志向は当然のことながら低くなる。これでは、教職志望動機は高くならない。また、幼

稚園・保育園の好きな先生として「有能系」を挙げた調査対象者の恩師志向は高かった。

2. 教師との関わり経験について

受容経験については、印象に残った先生の種別としては、「中学校の部活動の先生」の得点が低く、「高校の担任の先生」の得点が高かった。部活動の先生は厳しい指導を行う機会も多いため、受容してくれたという思いは少なくなるのかもしれない。「高校の担任の先生」は、「高校の部活動の先生」よりも有意に高得点であり、高校の担任の先生は、進路指導を行う中で親身に相談に乗ってくれた状況が推察される。傷つき経験では、印象に残った先生は、「高校の部活動の先生」の得点が高く、「小学校の先生」との間には有意差がみられた。厳しい指導の影響が推察される。親密経験についても、印象に残った先生は、「高校の部活動の先生」「高校の担任」および「高校の担任や部活以外の先生」よりも有意に低かった。承認経験に関しては、印象に残った先生の種別としては、「中学校の担任」「中学校の部活動の先生」の得点が低く、両者は「習い事の指導者」よりも有意に低い得点であった。体育大の児童教育学科やその科目等履修生には、スポーツやピアノ等で何らかの特技を持って入学してくる学生が多く、習い事で高い承認経験を持っているのであろう。

3. 教師への信頼感について

安心については、幼保の好きな先生に関して「有能系」が「親身系」よりも有意に高かった。指導力がある先生は頼りになって安心感を生むのであろう。不信については、「高校の部活動の先生」に対する不信の得点が高く、特に「小学校の先生」および「中学校の担任や部活動の以外の先生」よりも有意に高かった。部活動の先生は、その厳しさが不信感につながってしまう場合もありうるのかもしれない。しかし自由記述内容を見ると、「厳しかったが、競技以外の人として大切なことや礼儀も教えてくれた」といった内容が多く、体育大学である本学およびその短大に入学する学生にとって、与える影響は計り知れない。役割遂行については、「親身・熱心系」「有能・指導

力系」「笑顔系」が「ネガティブ」より高かった。教師が熱心で有能であること、笑顔を絶やさないでいることが、教師としての役割をきちんと遂行しているという印象につながるといえる。

今後の課題

本研究では、151名の調査対象者を様々な条件に細かく分けて、教師との関わりや教師への信頼感、これまでの各校種で出会った好きな先生・嫌いな先生・印象に残った先生などについて尋ねており、いわば実態調査的な側面を持っている。そのため、大石(2013)のような仮説モデルを構成し、統計的なモデル検証を行うような研究構成にはなっていない。しかしその分、現実の本学学生の実態をありのままに記述し理解するものになった。今後はより踏み込んだ仮説検証的アプローチで研究を継続することが重要といえる。

本研究では好きな先生、嫌いな先生、印象に残った先生などを自由記述で答えてもらったが、アフターコード集計を行い数値データの形で分析した。自由記述の内容は各調査対象者毎に個性に富み、それをありのままに分析・検討できなかった点が今後の課題といえる。

また本研究では教職志望学生のみを対象にしているため、切断効果があると考えられる。本学は教員免許取得率が大学体育学部では例年8割前後であり、短大児童教育学科では教員免許取得は卒業必修要件となっている。そのため、「教職を志望していない学生」は本学には少なく、統計的な手段を用いて検討を行う際には、教職志望の有無や強弱による有意な結果を得るのが難しいという問題がある。今後はこの点についても考慮しながら研究を進める必要がある。

加えて、本学は体育大学であり、併設の短期大学児童教育学科を含めても、入学してくる学生のほとんどが高校や中学での運動部経験を持っている。部活動の先生に影響についても、自由記述にみられる多彩な内容をより深く検討できる手法の探索が望まれる。

最後に、大学体育学部3年生においても本研究と同様の研究を行い、結果を比較することも重要といえる。

引用文献

- 春原淑雄(2010) 親の要因、教職志望動機および教師効力感の関連: 教員養成課程の新入生を対象として 学校教育学研究論集, 21, 1-10.
- 中井大介・庄司一子(2006) 中学生の教師に対する信頼感とその規定要因 教育心理学研究, 54, 453-463.
- 中井大介・庄司一子(2008) 中学生の教師に対する信頼感と学校適応感との関連 発達心理学研究, 19, 57-68.
- 中井大介・庄司一子(2009) 中学生の教師に対する信頼感と過去の教師との関わり経験との関連 教育心理学研究, 57, 49-61.
- 大石千歳(2013) 教師との関わり経験と教師への信頼感が教職志望動機に及ぼす影響-キャリア教育・教育相談の観点による心理学的研究- 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 48, 17-25.

脚注

1. 尺度の名称については、中井・庄司(2006)では「生徒の教師に対する信頼感尺度」(Students' trust in teachers)の略称が「SIT」尺度」とされているが、この文献では40項目の尺度である。中井・庄司(2008)では項目の精選を行って31項目版の尺度となっている。尺度の名称は「生徒の教師に対する信頼感尺度 (Students' trust for teachers) となっているが、「方法」の欄では「SIT 尺度」が正式名称であるかのような記述となっている。中井・庄司(2009)の「方法」の欄も同様である。そこで本研究では「SIT 尺度」との表記を記載し、英訳は本研究で用いた31項目版の出展となる中井・庄司(2008)の記載に従った。なお、大石(2013)のSchool Teacher Trustとの表記は誤りである。